

1. 中城の将来像

中城が好き

～誇りと愛着が生み出す とよむ中城～

「十年一昔」世の中は移り変わりが激しくおよそ10年で大きな変化が生じるということを意味する言葉です。中城村において第四次総合計画が策定されてから、10年余が経過しました。「住みたい村」を将来像に掲げ、より多くの定住人口を確保していくことを念頭においた取組みの結果、将来人口目標を大きく上回り現在に至っています。

沖縄は、今年で戦後78年目を迎えます。アメリカ統治や日本本土復帰などの苦難な時代を経て、復興・発展に向けて歩み続けてきました。そんな状況の中、本村において着実に人口が増加してきたのは、まちとしての開発だけでなく、東海岸から農地、斜面緑地へと連なる自然環境や世界遺産「中城城跡」を中心としてこれまで連綿と受け継がれてきた固有の文化や伝統など多くの魅力にあることは言うまでもありません。それに加えて、村民の地域に対する誇りや愛着が、中城で暮らし続けていくための「心の豊かさ」を支えているのではないのでしょうか。

一方で、国内全体に目を向けてみますと、進行する少子高齢化や長引く景気の低迷、景気の動向が見通せない中での雇用問題、貧困問題等が喫緊の課題として認識されています。本村においては、一見すると少子高齢化という課題は該当しないようにも思えますが、令和4（2022）年3月時点で65歳以上の割合が20.0%に達しており、高齢化に伴う諸問題が一気に顕在化するのとは時間の問題となっています。さらに、令和元（2019）年に発生した新型コロナウイルス感染症は令和2（2020）年から感染が拡大し、その対応を余儀なくされており、今後もしばらくは新しい暮らしの方式を視野に入れた取組みを実践し続けていくことが必要となります。

こうした社会状況を紐解いていくと、第五次総合計画の計画期間は、第四次総合計画において目標として掲げた人口の増加という量的成長から、この10年で成し遂げた成長を基盤としながらも、村民の暮らしやすさや村の魅力向上等の質的成長をいかに実現するかという視点が重要になってきます。市街化区域として住宅の受け皿となり発展を続けてきた南上原地区についても、土地利用率が90%を超えるなど、まちとしての完成形に近づいています。さらに、沖縄県の人口は2035年頃をピークに減少に転じると予測されており、今後は周辺市町村との定住者誘致競争が益々激化することが予想されています。

そこで、これからの十数年は、一定規模の人口増加を目指しながらも、その先を見据えて、中城で暮らしている一人ひとりの「暮らしの質＝満足度」をさらに高めていく必要があります。量的な発展に加え、質的な豊かさを付加していく重要な期間と位置づけ、中城が未来永劫に「とよむ」という基本的な視点を踏襲しながら、持続的な発展を目指していきます。

この発展を支えるのが、冒頭で述べた地域に対する愛着や誇り（シビックプライド）です。中城に住む人、訪れる人、関わる人がそれぞれ「中城が好き」になること。その人たちが、自信を持って「中城が好きです」と言える村になること。その中から、多くの人たちの「中城に住みたい」を実現すること。すべての村民が「中城に住み続けたい」と思えること。さらには、一度は村外に出ても「また戻ってきたい」と思えること。こうしたシビックプライドを醸成していくことが、未来に向けたまちづくりの基盤となります。

そして「好き」という想いに支えられた、持続可能な村政運営とまちづくりを進めていくために、中城村第五次総合計画基本構想における将来像を「中城が好き ～誇りと愛着が生み出す とよむ中城～」とし、これから11年間の中城における指針とします。

「とよむ」とは…

「鳴り響く」の意味。中城村は、豊かな土地と景観に恵まれ、古くは貝塚時代（約3500年前）から人が住み着いていたことが知られている。古琉球時代以降、護佐丸や中城城などの歴史を彩る人物や史跡が登場し、琉歌にも「とよむ中城 よしの浦のお月 みかげ照り渡てさびやないさめ（世に名高い中城城から吉の浦を眺めると月が美しく照りわたり、なんと平和なことか、とても災いなどあろうはずがない）」とうたわれている。「とよむ」という言葉は、中城においては、この琉歌に由来して、文化・生活すべての面で活気があり、世に響きわたる理想的な村の姿を表す端的な言葉であると言われている。

シビックプライド

まちへの誇りや愛着、共感をもち、「まちのために自ら関わっていかうとする気持ち」のこと。



2. まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念は、中城においてこれから11年間の様々な取組みにおける基本的な考え方を示した「中城の将来像」と、この将来像を実現するための柱となる「施策の大綱」を相互に調整した、まちづくりの共通の考え方となるものです。

過去の基本構想で掲げられた理念を尊重しながら、地域コミュニティや新たな交流の中で、村民意識の変化や昨今の社会情勢などをふまえつつ、地域と行政が協働で取り組んでいく中城のまちづくりの基本理念を次のとおり定めます。

基本理念1

Persons ～村民を守り育む～

中城におけるまちづくりの原動力は、言うまでもなく「人」です。すべての村民が、健康で文化的な暮らしを送ることができる社会を実現することで、村民一人ひとりの中城で暮らすという想いを守っていきます。

中城の次世代を担う子どもたちは、村全体の宝です。子どもたちが健やかに生まれ育つ社会の実現に向けて、子育て支援や教育の面で、より充実した取組みを推進していきます。

また、人生100年時代という新たなライフステージを見据える中では、全ての世代がいつまでも健康で生き生きと暮らすことのできる機会の創出や保健・医療の拡充を図っていきます。

さらに、異なる立場の人たちが、分け隔てなく暮らせる多様性社会の実現や、これまでも追い求めてきた平和への希求を欠くことなく、新しい時代に向けての基盤を形成していきます。

基本理念2

Roots ～自然・歴史・文化を確実に継承する～

中城の未来を描いていくためには、村民の共有財産である自然環境、歴史的風土、文化的背景等これまでに継承してきた様々な価値を理解し共有することが必要です。これらの価値はいわば中城のルーツ（根っこ）であり、そのルーツの延長線上に今日の暮らしが築かれています。

しかし、村内に現存する数多くの文化財や自然環境の価値、そして受け継がれてきた民俗芸能などの伝統文化を知る村民が少なくなり、故郷の歴史や文化を知らぬままに育ち村外へ出ていく子どもたちも少なからずいるのが現状です。

今後、まちづくりを行っていくうえで、村のルーツである自然・歴史・文化を知り、理解していくことが出発点であり、そのために村民一人ひとりがその価値を再認識し、後世へと継承していくように尽力していきます。

基本理念3

Life ～暮らしに豊かさを与える～

人が暮らしていくうえで豊かさを実感するためには、住環境やまちの基盤が整備され、住まい、仕事、余暇活動といった日常生活の充足を付加していくことが必要です。

特に、地区ごとに異なる発展を見せる本村においては、これらの付加価値付けを一律に進めるのではなく、地区の特性やニーズに応じた取組みを柔軟に推進することで、村民の満足度を高めていかなければなりません。

また、農業の多面的展開や観光による新たな産業育成など、中城の有するポテンシャルを活かした、新たな価値を生み出す施策に積極的に取り組んでいきます。

さらに、交流人口や関係人口を増やすことで、中城に関わる多くの人たちとの交流を促進し、より多くの中城ファンを生み出していくことを目指します。

基本理念4

Sustainability

～持続可能な未来を支える～

今回掲げている基本理念は、未来にわたって引き継がれていくものでなければなりません。特に、自然災害の甚大化が激しい昨今、長大な斜面緑地と海岸沿いの広大な低地部を有する本村においては、地震・津波や豪雨災害といった様々な災害への対応は避けて通ることはできません。そのため、災害に対しては、その被害を軽減し、立ち直っていく復元性をもった仕組みを整えていきます。

また、日常生活を守っていくうえでは、地域コミュニティの活性化が必要不可欠です。新住民を含めた新たなコミュニティ育成にも積極的に取り組んでいきます。

さらに、村政運営の観点から持続可能性を見た場合には、財政の健全化や各種システムの積極的なDXの推進による行政事務の効率化を進めることが必要です。そして、これらの行政運営を担う職員一人ひとりのさらなる資質向上を図り、人的資源の持続的な維持、確保を図っていきます。

基本理念5

Cooperation

～多様なつながりを基盤とする～

これまでに掲げた4つの理念を実現していくうえで、これらに通底する理念として、2つのつながりを位置づけます。

1つは、「周辺市町村との広域連携」です。今後沖縄県においても突入する人口減少を見据えたときに、効率的な行政運営という視点を避けることはできません。今後は北中城村との「共同のまちづくり計画」をはじめ、周辺市町村との連携を視野に入れ、各種公共機能を市町村ごとに整備するといったこれまでのやり方から、同一施設・機能を関係市町村でシェアするといった連携を積極的に構築することで、各自治体の負担を軽減しながら最大限の効果を発揮することが必要になってきます。特に災害対応、交通ネットワーク、観光等の分野においては、その効果が大きいと考えられることから、すべての施策において広域行政という枠組みの中での実施を常に念頭に置いた企画立案を目指していきます。

もう1つは、DXによるつながりです。国が掲げるデジタル田園都市国家構想では、地域の豊かさをそのままに、都市と同等又は違った利便性を備えた、魅力溢れる新たな地域づくりを目指しています。中城においても、様々な領域におけるデジタル化を推進することで、より高次のサービスや新たなビジネスモデルを創出していくための基盤形成に取り組んでいきます。

デジタル田園都市国家構想
デジタルの力で、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図り、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指すこと。

3. 施策の大綱：目指す村の姿

「目指す村の姿」を以下のとおり掲げ、まちづくりを推進します。

基本理念1：Persons ～村民を守り育む～

目指す村の姿1：子どもの健やかな成長を支援します

1. 妊娠から成長までを支える仕組みを構築します
2. 子どもの豊かな教育を支援します

目指す村の姿2：誰もが笑顔で元気に生活できる村にします

3. 健康に暮らすことができる村をつくります
4. 地域で支えあい、いきいき暮らせる村をつくります
5. 生涯にわたる学びの機会を創出します
6. 多様性を尊重し自分らしく暮らせる村をつくります
7. 平和の心を次世代につなぎます

基本理念2：Roots ～自然・歴史・文化を確実に継承する～

目指す村の姿3：豊かな自然と歴史文化を守り継承します

8. 中城の美しい自然環境を保全します
9. 地球環境に配慮した取組みを推進します
10. 文化財を保存・継承します

基本理念3：Life ～暮らしに豊かさを与える～

目指す村の姿4：安定したまちの基盤をつくります

11. 全ての人々が快適に生活できるまちの基盤を整備します
12. 暮らしやすい住環境と美しい景観を創出します

目指す村の姿5：中城の魅力を創造し発展させます

13. 経済と産業のさらなる発展を目指します
14. 多様な交流が生まれる環境を創出します

基本理念4：Sustainability ～持続可能な未来を支える～

目指す村の姿6：安全・安心の暮らしを創出します

15. 災害に強い基盤と仕組みをつくります
16. 住民生活の安全・安心を確保します

目指す村の姿7：連携と協働により持続的発展を目指します

17. 地域コミュニティを育成します
18. 役場の体制強化と堅実な行財政運営を進めます

基本理念5：Cooperation ～多様なつながりを基盤とする～

▶基本理念1：Persons ～村民を守り育む～

目指す村の姿1 子どもの健やかな成長を支援します

人口増加が続く本村では、次世代を担う子どもたちの人数も増加傾向にあります。中城で育つ子どもたちが、未来に向かって健やかに成長することができるよう、子育て世代、子育て世帯の希望を把握し、妊娠期から子育てが終わるまで、切れ目のないきめ細やかな支援ができる体制を整えていくことが必要となっています。

安心して子育てができる環境と、子どもたちがのびのびと健やかに成長することができる環境づくりを一貫して進め、子育て支援の充実した中城を目指します。

施策1：妊娠から成長までを支える仕組みを構築します

子どもが健やかに成長するためには、家庭と地域、行政の連携や支援が必要です。妊娠期から子育て期にかけての健康づくり支援や相談事業により母子の健康管理を充実させ、さらに障がいを持つ子どもや医療的ケア児に対する、きめ細かな支援についても取組みを進めます。

また、少子高齢化や核家族化が進行する中で、ひとり親家庭や子育て中の貧困世帯に対する支援も増加しています。子育て支援センターや児童館など、子どもが安心して過ごすことができる環境を整え、さらに子育て世帯に対する情報提供の充実を図ります。

施策2：子どもの豊かな教育を支援します

次世代を担う子どもの育成を図るため、家庭や学校、保育所、地域、子育て支援施設などとの連携を強化し、幼児教育から学校教育、社会教育へとつながる、一体的な教育内容の充実を図ります。

昨今の社会課題への対応や地域文化の育成等を視野に入れ、支援の必要な園児や児童・生徒への対応、環境学習や地域教育などを取り入れた特色ある教育の充実を図るとともに、教育施設や備品の整備や維持管理を実施します。

また、学校教育を通じた食育の実施や、児童・生徒を対象とした各種交流事業についても継続的に取り組めます。

▶基本理念1：Persons ～村民を守り育む～

目指す村の姿2 誰もが笑顔で元気に生活できる村にします

全国で急速な高齢化が進む中、健康寿命という考え方が注目されています。本村においても、高齢化は喫緊の課題であり、健康な高齢者を増やすことは、村の財政面からも重要です。

そのため、若いうちから各種健診の受診や生活習慣病対策など健康への意識を高めるとともに、地域との連携による高齢者の生きがいづくりや、保健、医療、福祉の連携による総合的な取り組みを行うことで、全ての村民が心身ともに健康に暮らすことのできる中城を目指します。

施策3：健康に暮らすことができる村をつくります

全ての人が健康に暮らすことができるよう、保健事業、健康づくり事業の実施にあたっては、疾病の未然防止を基本とし、各種健診事業の拡充や受診率の向上に向けて取り組みます。

さらに、健康相談や健康教育、イベントの実施等により村民自らの健康意識の向上を図るとともに、適切な医療費の削減についても進めていきます。

施策4：地域で支えあい、いきいき暮らせる村をつくります

村民の福祉に対する意識高揚を図り、高齢者や障がい者などへの支援について、行政だけでなく地域と一体となった取り組みを進めます。

また、国民年金制度については、相談事業等の継続により、さらに周知を図っていきます。

施策5：生涯にわたる学びの機会を創出します

村民の学びのニーズに対応するため、生涯学習講座等を開催するとともに、各種団体やサークル活動、団体間交流を支援します。また、必要に応じて活動拠点の整備・拡充を行い、文化、芸術、スポーツなどあらゆる分野での学びの機会を創出します。

施策6：多様性を尊重し自分らしく暮らせる村をつくります

世界的に人権や多様性の尊重がうたわれる中で、本村でも性別や国籍、思想、障がいの有無などに関係なく、中城に住む全ての人々の人権や多様性が尊重され、個性や能力を発揮することのできる村の形成に努めます。

施策7：平和の心を次世代につなぎます

戦争を経験した世代の減少が進む中で、戦争体験を後世に継承するため、平和教育、平和学習の機会を創出するとともに、戦争遺跡の適切な保存、整備、管理、活用を継続します。また基地問題の解決に向けても周辺市町村と連携して取り組みを進めます。

▶基本理念2：Roots ～自然・歴史・文化を確実に継承する～

目指す村の姿3 豊かな自然と歴史文化を守り継承します

世界規模で環境問題が深刻化する中、脱炭素社会へ向けた取り組みや再生可能エネルギーへの転換、環境への負荷を軽減する循環型社会の形成など持続可能な社会へ向けた取り組みが求められています。

本村は、斜面緑地の緑や海浜等の豊かな自然環境を有し、さらに世界文化遺産に登録されている中城城跡をはじめ、大切に守られてきた文化財や集落内の各屋敷のフクギ等の防風林や拝所、御嶽等の文化資産、組踊等の民俗芸能など大切に守られてきた文化財が多く残されています。これらを中城村の共有財産として今後も適切に保全するために、郷土に対する誇りや愛着を育みながら、次世代へ継承していく様々な取り組みを実施します。

施策8：中城の美しい自然環境を保全します

中城の豊かな自然環境を守るため、斜面緑地や海浜など場所や特性に応じた保全・再生及び整備に向けた施策を実施します。

施策9：地球環境に配慮した取り組みを推進します

ゴミの減量やリサイクルの促進など、暮らしに身近なところからの取り組みを推進しながら、地域や関係機関と連携による施策を実施します。

また、再生可能エネルギーの導入など中城に適した取り組みを検討し、意識啓発に向けた情報発信を行います。

施策10：文化財を保存・継承します

村内の文化財においては、学術的調査や研究活動を進め、関係機関との連携のもと、文化財保護への取り組みを強化します。

また地域に残る伝統芸能や風習を後世に残すため、活動に対する支援や記録編纂体制の強化を図ります。

さらに、調査・研究による成果については、文化財学習への活用のほか、ガイダンス施設等の整備を視野に入れ、その価値を伝えていくための情報発信を行います。

▶基本理念3：Life ～暮らしに豊かさを与える～

目指す村の姿4 安定したまちの基盤をつくります

本村は低地部、台地部、市街化区域である南上原地区と土地の特性上大きく3つに分けられます。それぞれの特性と課題を把握し、実情に応じた整備を行いながら、村全体での均衡ある発展と、快適で村民が暮らしやすい質の高い環境づくりを推進し、全ての人が暮らしやすい、安定したまちの基盤整備を行います。

施策11：全ての人が快適に生活できるまちの基盤を整備します

公共施設、道路、公共交通、上下水道等、必要な公共インフラの整備や適切な維持管理を実施し、快適に生活するための基盤をつくります。土地利用の適正化や広域の道路ネットワークの構築については、周辺市町村や関係機関と連携した取組みを進めます。

施策12：暮らしやすい住環境と美しい景観を創出します

南上原地区の急激な人口増加が落ち着きつつある中で、都市近郊であるという利便性及び自然豊かな穏やかさをあわせ持つ住環境の整備と、その環境の維持を村民と協働で進めていきます。

さらに本村固有の景観を継承するため、適切な景観誘導を図りながら、景観形成への取組みを進めます。

目指す村の姿5 中城の魅力創造し発展させます

中城村には世界遺産である中城城跡をはじめとする多くの文化財や、豊かな自然環境に支えられた景観など数多くの魅力があります。その魅力は来訪者にとっての観光的な視点のみではなく、住んでいる人が住み続けたい、村外の人が中城に住んでみたいと思える暮らしを豊かに彩る役割も有しています。暮らしに豊かさを与えることは、今後の本村の発展において必要不可欠な視点であり、暮らしの基盤となる農水産業や商工業のバランスの取れた発展を推進することで、暮らしにも観光にも魅力を与える活力を持った中城を目指していきます。

施策13：経済と産業のさらなる発展を目指します

農水産業については、従事者の高齢化や後継者の減少等の課題解決へ向け、関係機関や事業者等と連携しながら、経営の合理化や省力化への取組み等を支援します。また観光や特産品開発とも連携した収益の向上を目指します。

商工業については働きやすい環境整備を視野に入れた地元企業の育成を支援します。

さらに観光については、村内の観光資源を計画的に整備するとともに、プログラム開発やSNS等を利用した効果的な情報発信により観光客の誘客を促進します。

施策14：多様な交流が生まれる環境を創出します

本村には琉球大学が立地しており、学生も多く居住しているため、様々な活動において琉大生との交流を図ります。

また、スポーツキャンプの誘致等を継続して行い、地域との交流の機会を創出します。

姉妹都市・兄弟都市との交流については、これまで実施している児童交流事業の継続はもとより、文化や産業、人事など多分野における交流事業を展開していきます。

▶基本理念4：Sustainability ～持続可能な未来を支える～

目指す村の姿6 安全・安心の暮らしを創出します

全国的に大規模な自然災害が頻発し、本村でも地震や台風、津波等の自然災害に対する一層の備えが求められています。そのため、不測の事態から村民の生命と財産を守るための、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

一方で、日常生活においても、交通安全対策や安定した消防・救急体制の構築、防犯対策などについて地域や関係機関との連携により迅速な対応を図るための仕組みを強化します。

施策15：災害に強い基盤と仕組みをつくります

災害への未然防止策を強化するため、斜面緑地における地滑り対策や避難経路、避難施設、災害防止に必要な施設等の整備を推進します。また、地域や関係機関との連携を強化し、村民の自主的な防災活動を支援するとともに、緊急時における連絡体制の構築や要配慮者への支援を強化します。

施策16：住民生活の安全・安心を確保します

日常的に起こりうる“もしも”に対応するため、地域や関係機関との連携を強化し、必要な情報提供や施設・設備の維持管理を行います。また交通安全対策や防犯対策については、積極的に地域と協働で取り組み、安全な環境づくりに努めます。

目指す村の姿7 連携と協働により持続的発展を目指します

土地区画整理事業や子育て支援の実施等を背景とした人口増加のペースが緩やかになり、生活の質に重点を置いた住みやすい中城が求められるようになってきました。地域の課題解決に向けた村民と行政との協働のまちづくりの推進や役場の体制強化を図ることで、持続的発展を目指します。

施策17：地域コミュニティを育成します

急激な人口の増加とコロナ禍による影響などにより、地域活動等にも変化が表れています。そのため、社会情勢や生活の変化などに対応しうる地域コミュニティの育成へ向け、各種の支援を実施します。また、村民と行政との対話の場を充実させ、広報紙やホームページなどで積極的に情報発信を行うことにより村民との意識共有を図り、さらに行政運営に村民の声を反映させる仕組みを構築することにより、開かれた村政を推進します。

施策18：役場の体制強化と堅実な行政運営を進めます

人口が増加し住民ニーズも多様化する中で、より効率的で行き届いた行政施策が求められています。そのため、DXへの取組みなど、村民の利便性向上と行政事務の効率化を進めるとともに、中長期的な財政計画を作成し、限りある行政資源の有効活用を図り経費の削減に努めます。

4. 土地利用構想

(1) 土地利用の基本方針

土地利用計画は、村土が次世代へ継承すべき資源であり、生活及び生産を営む諸活動の基盤であるという基本認識のもとに策定します。そして、本村の自然環境や社会経済的及び文化的諸条件等の地域特性や動向をふまえ、将来像である「中城が好き ～誇りと愛着が生み出す とよむ中城～」の実現にむけて、土地の有効活用と環境保全との調和による中城の発展をめざし、次のような土地利用の基本方針を設定します。

1) 中城村の地勢に留意した土地利用の配置

地域区分別に以下の方針を設定し、土地利用の基本とします。

平坦地域（国道 329 号から東海岸までの平野部）

- 田園居住を促進する居住環境整備
- 農用地の保全と有効利用の促進
- 商工観光業用地等の適正配置・誘導
- 公共施設等の中心的機能の整備拡充
- 国道 329 号沿線における商業施設や事業所等の誘致

斜面地域（平坦地域と台地地域に挟まれた斜面緑地部）

- 土砂災害等の防災に資する森林等の自然環境の保全及び良好な景観の保全
- 墓地の適正配置と景観的側面からみた土地利用の誘導
- 環境特性を活かした公園・レクリエーション機能等の充実
- 農用地の保全

台地地域（宜野湾市境界から中城ハンタ道までの丘陵部）

- 森林等の自然環境保全による良好な景観の創出
- 新たな市街地形成や公共施設等の検討・整備
- 公園・レクリエーション機能等の充実
- 農用地の保全
- (仮) 宜野湾横断道路及び (仮) 中城 I C の推進・検討

沿岸地域（中城湾に面した沿岸部）

- 公園・レクリエーション機能等の充実
- 海浜の優れた自然環境を活かした漁業・観光業等の振興拠点の創出やスポーツツーリズムの誘致
- 国道 329 号 (仮) 中城バイパスの事業化検討

2) 秩序ある土地利用の実現と良好な市街地環境の実現

土地改良事業の導入された大部分の農用地については、現況の土地利用保全を基本とします。新たな土地利用の導入も含め、農業系、住宅系、商業系、工業系土地利用等異なる土地利用の調和のとれた配置を実現していくとともに、地域の生活拠点形成のため、地区施設等の適切な配置や地域間連携が密接に行えるきめ細やかな土地利用誘導を図ります。また、既存の集落地周辺居住用地での安全で防災性の高い住環境を形成していきます。

3) 自然環境の保全と共生

本村の農地や森林、海岸線などの自然環境は、本村住民のみに留まらず、沖縄本島中部地域における都市居住者にとっての貴重な共有資源です。近年においては、地域の資源を活かした個性的で魅力あるまちづくりが一層求められる時代となっており、自然景観や広大な田園風景などの本村の魅力の維持・向上に努め、これらを最大限に活かすことができるまちづくりを進めます。

さらに、災害の発生防止や温暖化の防止など潜在的な機能や将来にわたる食糧供給の基盤としての重要な機能を有することから、人と自然が共生しながら自然環境を保全していくためのまちづくりを進めます。

4) さらなる村土の有効活用に向けた取組み

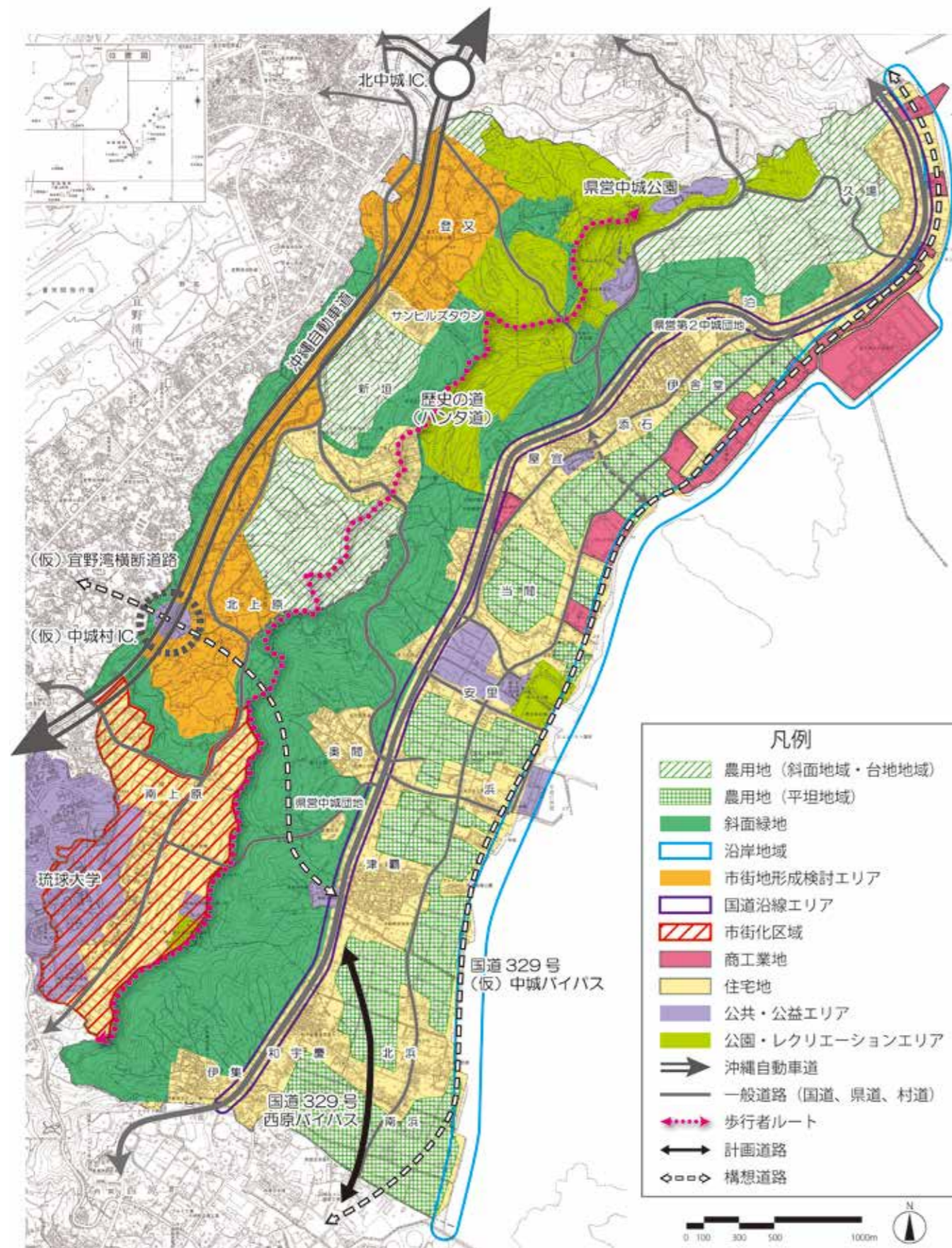
沖縄電力吉の浦火力発電所の周辺地域においては、良好な商工観光業振興拠点形成の早期実現のための土地利用施策を進めていきます。

また、発電所周辺以外のエリアについても、良好な居住環境の保全やまちの基盤の更新、農用地の有効利用等について地域の特性を活かした総合的な整備を検討していきます。

5) 将来都市構造をふまえた土地利用の配置

県全域および近隣市町村の開発動向に即した都市構造の位置づけとの整合性を図りつつ、那覇広域都市計画区域から中部広域都市計画区域への移行も含め、多様な都市計画のあり方を検討します。また、斜面緑地を境に二分化された平坦地域・台地地域ごとに住民生活に対応する土地利用及び公共施設等の配置を検討していきます。

■土地利用構想図



(2) 4つの拠点を生かしたまちづくり

第四次総合計画で位置づけられた4つの拠点を生かしたまちづくりを、継続的に推進していきます。

1) 歴史文化ふれあい拠点(県営中城公園周辺地区)

世界遺産中城城跡を中心に、広域的な利用を促す県営中城公園の整備に並行して、新たな公共施設等の誘致・整備を検討し、中城の歴史と文化の拠点形成を進めます。

2) 豊かな暮らしサービス拠点(役場周辺地区)

役場庁舎や護佐丸歴史資料図書館、吉の浦会館や吉の浦公園が集積するエリアは、住民生活を支え、多様な交流をはぐくむ中城の中心として位置づけます。

公共・公益施設の機能強化や新たな機能導入を検討し、村の「タウンセンター」としての拠点形成を進めます。

3) 都市文化交流拠点(南上原土地区画整理事業地区)

琉球大学周辺におけるまちづくりを継続し、学園都市のイメージを生かすとともに大学機能の活用を図り、高品質な住環境と文化交流の拠点形成を進めます。

4) 商工観光業振興拠点(吉の浦火力発電所周辺地区)

吉の浦火力発電所周辺のまちの基盤整備を推進し、居住環境の保全と商工観光業振興の拠点形成を図るとともに、エコ・コースト事業を含む海岸部の整備によって沿岸エリアのネットワーク化を図ります。

エコ・コースト事業

高波や浸食に強く、生態系等も含めた良好な自然環境にも配慮した海岸を整備することを目的とした事業。

■ 4つの拠点図

